

高盛土に対応した高機能防雪柵の開発

近年、高規格幹線道路の伸長により高盛土型式の道路も多く造られるようになりました。その場合吹雪対策には、主に視程障害緩和が求められること、斜面空間が大きい用地上の特色や、道路の車線数等の理由から、吹き止め柵が選択されることが多くあります。しかし道路構造上、盛土斜面上に吹き止め柵が設置されることが多く、道路面を基準とした見かけの柵高は低いものとなり、相対的に平地道路に比べ視程障害緩和に与える効果は低くなると考えられます。

そこで寒地土木研究所では、北海道ガソン(株)、(株)北武研究所との共同研究により、高盛土道路においてより防雪効果の高い新しい防雪柵の開発を行いました。

防雪柵による吹雪対策

積雪寒冷地における道路では、吹雪による視程障害や吹きだまりが冬期道路交通の大きな障害となっています。そのため、これまでに道路上の吹雪対策のため防雪柵などの整備が進められてきました。防雪柵には主に吹きだめ式、吹き払い式、吹き止め式の3種類があります。このうち吹き止め式防雪柵は、下部間隙を無くし、空隙率を低く、かつ柵高を高くしたもので、主に柵の風上に吹雪を堆雪させ、道路上の風速の低下と吹雪量の減少をもたらすことにより、吹きだまりと視程障害を緩和するもので、寒地土木研究所では吹雪対策としての防雪柵について研究を行っています。



▲吹きだめ式防雪柵

▲吹き払い式防雪柵

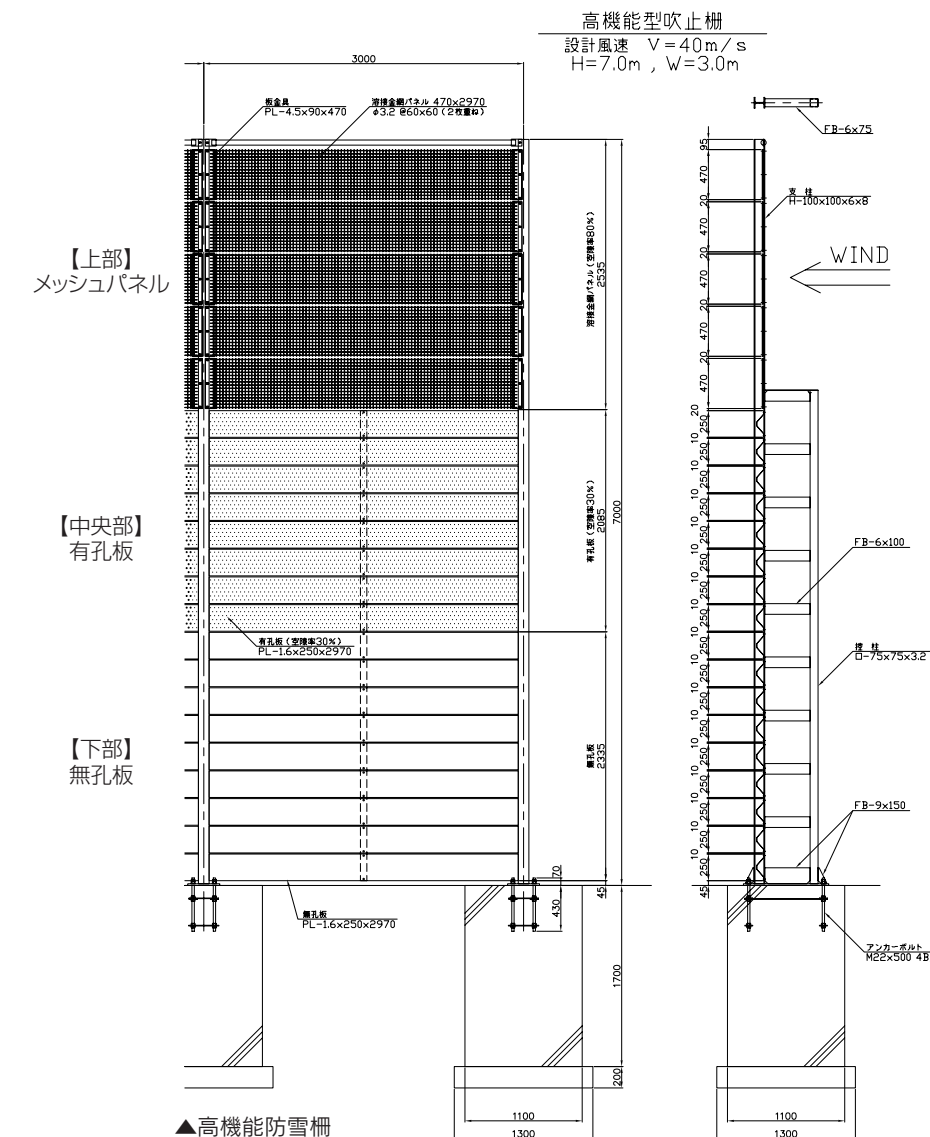
▲吹き止め式防雪柵



▲高機能防雪柵

高機能防雪柵

高機能防雪柵は上部の防雪板の透過率を高くすることにより受風圧の軽減を図った柵高7mの大型柵で、無孔板、有孔板（透過率30%）、メッシュパネル（透過率80%）を組み合わせました。また、忍び返しを設けていないため、形状も単純であり柵本体の設計が容易になるほか、勾配や曲線区間への設置も対応可能となります。



▲高機能防雪柵

高機能防雪柵の特徴

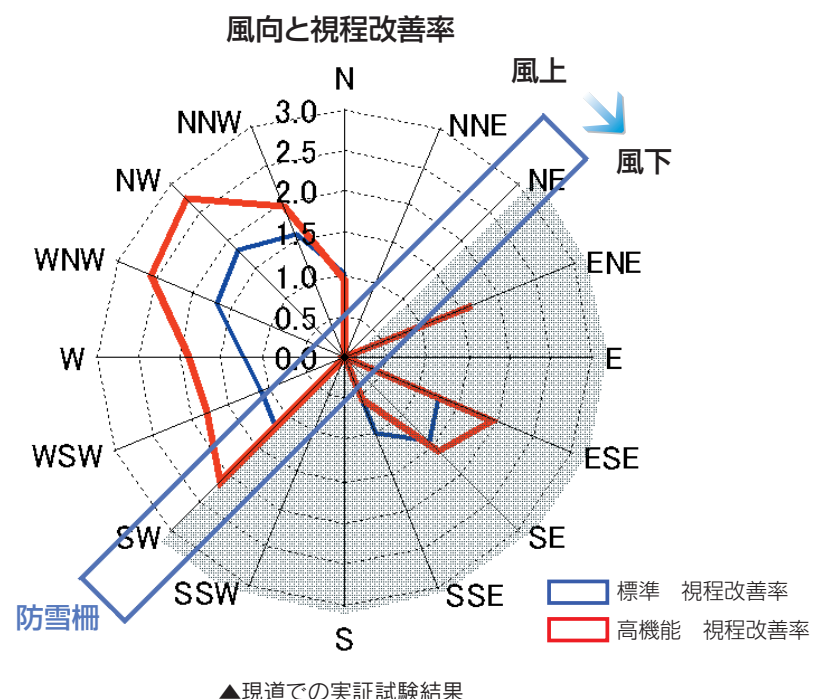
開発しましたあたらしい防雪柵(高機能防雪柵)は高規格道路等の高盛土区間での利用を前提に開発したものです。

実験検証により、標準型の吹き止め柵に比べて大きな視程改善効果を発揮するほか、斜行風に対しても大きな効果を発揮します。

また、盛土上の道路においても吹きだまりを生じさせることはありません。

高機能防雪柵の特徴

- 高盛土道路に対応した防雪柵
- 盛土上の道路部において吹きだまりを生じない構造
- 斜風に対しても防雪効果を発揮
- ほとんどの風向で標準型より視程改善効果大きい



▲現道での実証試験結果